

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月9日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300823
法人名	有限会社 サフラン
事業所名	グループホーム ヴィラ サフラン
所在地	鹿児島県鹿屋市郷之原町12854番地 (電話) 0994-42-7220
自己評価作成日	平成28年3月15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびりとした時間をすごしながら今までと変わらない暮らしの中で、その人らしく安心して、楽しい生活を送れるよう、気配り、心配り、目配りができるように努力しながら日々の介護に取り組んでいます。最後まで変わらない環境で生活したいと、ご本人、ご家族の希望に添い、終末期は主治医、鹿屋在宅支援診療所の医師、医療連携先の鹿屋訪問看護ステーション等と医療との連携を密に行い看取りを行っています。又、ホームを活用した共用型認知症対応型通所介護のご利用者のご利用を頂き、地域に開かれた認知症ケアの啓蒙啓発に努めています。此れまで、併設の一般型デイサービスを活用し、四季の催し、その中で地域の住民、関係者とのふれあいをとおして地域密着性を深めながら、参加者への認知症の理解や、認知症ケアの啓発に努めています。高齢者配食サービスの事業も併設し、この機能を生かして、昼と夜の食事の提供を受け、職員の介護に要する時間を設けると共に労務負担の軽減、食に関する栄養士の栄養管理も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、幹線道路に近く高台にあるため四季の移り変わりがつぶさ感じられる自然豊かな環境にある。併設のデイサービスやフードサービスに行き交う人の動きを感じながら入所者は、デイ利用者や地域の方々との交流活動に参加している。
- ・理念は、開設当初からのもので、のんびりとした時間の経過の中でその方自身の変わらぬ生活の実現や一人一人の思いや家族の絆、地域のふれあいを大切に心のこもった介護を目指すことを目標にしている。職員は、常に理念を念頭に置き、毎日のケアが理念に沿ったものであるかということを確認しながらサービスを提供している。
- ・職員は、月例会でテーマを決めて社内での勉強会やミーティングなどで知識や技術を研鑽し、身体拘束の弊害や権利擁護の必要性など多岐にわたる研修に参加しており、資格取得にも熱心で職員一人ひとりのモチベーションも高い。
- ・町内会に加入し地域の災害訓練や慰霊祭に積極的に参加したり、ホームの行事に地域のボランティアを受入れるなどしている。隣接したデイサービスとの交流活動もあり、幼稚園、保育園児とのふれあい、中学生の職場体験や高・大学生の体験学習、実習生の受け入れもおこなっている。
- ・医療連携が構築されており、訪問看護との連携や看取りに対しても柔軟に取り組んでおり、今月も看取りを経験したばかりである。入所時、「重度化した場合における対応に係る指針」にて説明し、段階に応じたその都度の説明と同意を得たうえで本人が納得のいく最後が迎えられよう支援している。管理者は、指針について内容を精査し、文書化を検討している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念「のんびりとした時間をすごしながら今までと変わらない暮らしの中で、“お一人、お一人の思いと家族の絆と、地域とのふれあいを”大切にしながら心のこもった介護をめざします」をつくり上げて管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている。	理念を掲示し、月2回のカンファレンスで振り返り共有している。理念に沿ったケアが実践されているかどうか定期的に見極め職員に大切にされ、浸透している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域で行われる慰霊祭へ参加したり、秋祭り、クリスマス会には地域の方のボランティアや、地域の皆様に招待して事業所もオープンにして交流を深めている。	町内会に加入し、地域の慰霊祭や災害訓練に積極的に参加している。ホームは、利用者が地域の方々と日常的に交流ができるよう隣接したデイサービスへ出かけて地域の方々や幼稚園、保育園児とふれあい、中学生の職場体験、高校生、大学生の体験学習、実習生などを受け入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営会議を開催する中で認知症をより理解して頂けるように資料に基づいて勉強会を開いたり、認知症支援員より認知症サポーター等の取組等、施設に「オレンジのまど」を設け、オレンジカフェの実践に向け、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議毎に利用者様の、生活状況報告とサービス内容評価への取組状況等について報告を行い、委員の皆様率直なご意見などを積極的に頂きながら話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	推進会議には、家族代表を2名依頼するなど家族への参加を呼びかけている。また、会議では事業所からの報告とともにメンバーからの意見や要望、質問を受け、双方向的な会議になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関しては市の担当者へ相談したり、地域の包括センターへの相談を行う等、市を通じた「オレンジのまど」を設置し“オレンジカフェ”の実践を図り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者や地域包括支援センター、福祉事務所との連携があり、面談や電話、メールなどで情報収集したり、相談や助言を受けるなど協力関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置して社内での勉強会やミーティングの時など確認している。今まで身体拘束の事例はなく身体拘束0を指針としたケアに取り組んである。	身体拘束の指針もあり、月例会の中でデイと合同で勉強会を実施している。ふいに外に出て行かれる方もある中、鍵をかけずに自然に寄り添うケアを実践しているホームである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議や、社内の勉強会で虐待防止法について学び、また身体拘束委員会を設置して虐待防止に向けての取組を行っている。虐待については各スタッフも周知できている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などを通じ制度について学ぶ機会があり理解し、活用できるように支援をしているが、現在の所、必要性のある方はなく、今後必要な方に対しては活用できるよう引き続き支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際、契約書、重要事項説明書、運営規程等を元に十分な説明を行い納得、理解していただいた上で入居して頂き、また退居時も十分ご家族と相談しながら手続きを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の契約時に苦情の方法や関係機関について説明を行い、重要事項説明の中にも書かれている。またホームの玄関内にも「お気付き箱」を設置し、運営に関するご家族等の意見を反映させている。	「お気づき箱」は設置しているが、利用者や家族とは直接面談で意見や要望などを聞き取るよう努めている。野菜中心の食事を提供してくれるので食事に対する利用者や家族の満足度も高い。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内の月例会の中で意見や提案が自由にだせる機会が設けてあり、代表者や管理者は運営に関する職員の意見や提案を運営に、反映させている。	管理者は、職員と個人面談しているが意見や相談の内容によっては、直接代表者とのやりとりを勧めるなど臨機応変に対応している。月1回の月例会では、職員全員の意見交換の機会があり、出された意見や提案などは、サービスやケアの改善に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各事業所の管理者会議を月2回行い事業の運営状況を報告し、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、又月1回の全体会議においても、同様に職場環境・条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の案内があった時は職員の希望を取りいれて研修に参加している。独自の自己啓発に取り組む姿勢も見られて介護の向上を目指している。研修後は研修報告書を作成して社内研修に活かしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の研修や鹿屋市の集団指導などに於いて、他施設の状況など学びサービスの向上につなげている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にご本人、ご家族に見学して頂いて、その際に課題やご希望をうかがっている。入居されてからはご本人の思いや不安な状況に向き合い安心して生活を送ってもらえるように信頼関係の構築に努力している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>施設を見学して頂いて、その際に、ご家族の相談事、困り事は十分聴取し、施設理念などの説明を行い納得理解して頂き不安の軽減、意向に添いながらサービスが図れるような努力する旨の理解を頂き信頼関係を構築している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>身体状況の悪化、要介護状態の回復等家族が不安を訴えられる事もあり、その都度相談にの乗ったりしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員が利用者様と一緒に過ごす時間を多く持ち、過ごす時間の中で喜怒哀楽を共有しながら、人生経験談等を伺う機会も多く、その中で利用者様から学び教えて頂く事柄も多く共に支え合う関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設見学して頂いて、その際、ご家族の困りごと、希望に等十分聴取し、施設の理念などの説明を行い、納得理解を頂いて不安の軽減、希望などのサービスを図れるような努力をする事を、理解して頂き信頼関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の想いを尊重して、地域との関係の継続や併設のデイサービスに出掛けて馴染みの人との関係を保つなど散歩、嗜好品の買い物に近くのスーパーに外出し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの関係が途切れることがないよう家族と一緒に外出したり、家族や幼馴染の方が面会に来られるなどしている。隣接したデイサービスを利用される地域の方々との交流活動への参加や共用型デイサービス利用の方との交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互い助け合い、支え合い暮らしていけるように支援をしている。食事やお茶、入浴の声掛けなどお互いとて、いい関係ができており支え合っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体状況で長期に入院が必要となりご家族の希望で契約を終了したケースが2名あった。契約終了しても最後まで本人、ご家族の関係は大切に必要の支援を積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々生活の中で、独語の中で気持ちを表現されたりすることで気持ちを感じ取れるように努めている。困難な場合でも本人の状況をしっかり受入れて解決しないと先に進まない事が多いので利用者様本位にあらゆる介護方法を検討しながら対応している。	本人の思いは、発せられる言葉や会話の中で見出すよう心がけている。また、発言や行動のなかで本人の思いを汲み取るようにしている。家族、職員は、本人の思いを共有し、本人らしく暮らせるようケアカンファレンスや担当者会議などで話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込みの時、又は見学の時に本人、家族居宅事業所ケアマネジャ等から聞き取りを実施し、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの1日の暮らし方や生活リズム、身体状況の変化時は早期に気づける様に努めている。有する力等現状を総合的に把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らす為の課題とケアの在り方について、計画どおりに実行されて、なおかつニーズが充足されているかどうか、計画を実行するかどうか、本人、家族、スタッフ会議に於いて意見、意向を反映して現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングやケアカンファレンスなどで、本人や家族の意向を把握し共通認識して、アセスメント情報から抽出された課題を話し合い、介護計画に反映して本人がどう生活したいか、どうなりたいたのかなど見極め介護計画は、本人の言葉で意向を表現した記載になっている。3ヶ月ごとにモニタリングをおこない、見直しは半年に1回実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や日々の体調変化、実践の結果を築き工夫を個人ファイルに記録にして残し、又申し送や業務日誌等で情報を共有しケアの向上につなげている。その中で計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して共用型ディサービスをご利用して頂くなど柔軟な支援を行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会長、老人会長、小中学校長、民生委員や地域の住民の方等、施設行事に招待したり、地域のボランティアの方も積極的に来ていただいている。地域の小学校、中学校の体験学習、体育大生の実習の受け入れ、地域資源との協働をの支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を大切に、入居前のかかりつけ医と事業所の関係を気づきながら、適切な医療が受けられ、安心して手生活が送れるように支援をしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、訪問診療を受けているが、主治医が時間に余裕を持ち、相談に乗るなど協力関係を築いている。また、他科受診などの外来受診も柔軟に取り組んでいる。内服薬は、薬剤師が届けてくれたり、訪問看護師との連携も図れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、毎日の健康管理や、毎週1回定期的に鹿屋訪問看護ステーション等身体状況悪化時は訪問看護と個人契約を行い医療との連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院生活の環境の変化で精神的な負担が最小限ですむように、主治医、ソーシャルワーカーと情報交換や相談に努めているとともに、日頃から連携を密にしてそうした場合に備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に係る指針を作成して入居時、本人、家族に説明を行って理解をして頂いた上で同意を頂いている。終末期は家族、かかりつけ医等密に連携を取りながら全員でカンファレンスを開き方針を共有している。	24時間切れ目なく医療が受けられる体制が構築されており、重度化した場合や看取りについても柔軟に取り組んでいる。今月も看取りをしたばかりである。ホームは、「重度化や終末期に向けた指針」を作成し、入所時に本人、家族から同意をいただいているが、重度化した場合、段階に応じた事業所でできるケアについて具体的に明記していないため、管理者は指針の整備を検討している。	重度化に伴う意思確認書などを作成し、本人や家族の意向を踏まえ、主治医、他職員や関係者が連携をとり、安心して納得のいく最期を迎えられるように、段階に応じて、本人や家族の意思を確認しながら取り組むことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療連携体制の下、24時間いつでも急変や事故発生時に助言、指示、指導を仰ぎ、職員もスタッフ会議等において定期的な研修を行い又、消防署が実施する普通救命講習を受講し救命技能を身に付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者による消防計画に基づき災害訓練を年2回行っている。また近隣の方に出向き災害時の協力の要請をお願いしたり、今期7月は市安心安全課、消防、町内会の土砂災害図上・避難訓練に参加し避難の様子等テレビ放映され、今後も地域の防災関係機関への協力を働きかけている。	夜間を想定した避難訓練を年2回実施し、地域住民や民生委員などの地域の協力体制も築いている。昨年は、地域の防災訓練に利用者と一緒に参加した。備蓄は、フードサービス事業所で管理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーを損ねる事がないように、生育歴、生活歴をくみ取り言葉かけや対応等、大切に尊厳を守るケアを行っている。個人情報については、入居時に必要な情報提供の同意を得る等して、承諾を得、職員は規則に添った取り扱いをしている。	プライバシーや権利擁護については、月例会で触れたり、研修会を開催するなどして知識を研鑽し、利用者には尊厳をもって接するよう常日頃から徹底している。言葉かけや呼びかけは、利用者の生活歴を考慮し、相性で呼ぶなどしているが一人ひとりの誇りやプライバシーは尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のペースに合わせた言葉かけを行い、寄り添いながら状況観察を行っている。それぞれの希望や思いを気軽に話せるように、又導き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムは保ちながら、個々それぞれの生活リズムに合わせて、一人ひとりのペースを大切に、その日がどのように過ごしたいか希望に添った、自由な生活が送れるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望に応じて衣類の買い物に出かけたり、理美容を希望に髪染めをされる等意向を尊重している。自己決定困難な方はご家族に相談したり、職員が話ったり、他の利用者様の意見も参考にしながら身だしなみやおしゃれの支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの嗜好を取り入れながら、食事が楽しめるように、食事中にテーブルを囲みながら利用者様と職員と一緒に楽しく話合っている。出来る能力に応じて後片付けも職員と一緒にやっている。	隣接したフードサービスから配食を受けているが、日曜日は、ホームで調理している。下膳の手伝いをされる方もおられ、職員と一緒に食卓を囲んでいる。お弁当や手作りのケーキ、テラスでのお茶やバーベキューを家族と楽しむこともある。クリスマス会はデイと合同でおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や栄養バランスについては、社内の栄養士に相談したり、水分量は個々の身体状況に合わせてかかりつけ医に相談しながら、一日をどうして確保できるように一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を行うと共に食事量や水分量を把握して記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	健康管理の中で口腔ケアは大切なケアであり、個々の能力に応じて働きかけを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンの把握を行っている。定時誘導、随時誘導を行いトイレでの排泄や排泄の自立支援を行っている。	昼間は布パンツ使用の方が5名もおられるなど排泄が概ね自立しておられる方やリハビリパンツを使用し時間やタイミングをはかって誘導している方など様々である。職員は、水分量や食事、下剤の調整を行い排泄習慣を整えるケアに力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が原因で周辺症状が増悪する事が多くあり、食材の工夫や、運動を働きかけるなど、個々に応じて便秘予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日午後から、大きな檜風呂で入浴ができるように準備しており、一人一人の順番のご希望やタイミングに合わせてながら安全に気持ち良く入浴を楽しんでもらえる支援をしている。	入浴順番表が浴室前に掲示されており、入浴の順番にこだわりがある方が公平に入浴ができるようローテーションで入浴を楽しんでいただいている。午後からの入浴支援であり、デイのヒノキ風呂や大浴場を活用して温泉気分が堪能できるよう入浴の楽しみに配慮している。機械浴もデイに設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活リズムに合わせて休息したり、身体状況をみて応じている。夜間眠れない時はお茶を飲んで頂くなど入眠がスムーズに出来る様な支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表の個人ファイルを作り服薬の確認ができている。服薬の介助は個々の状況に合わせて支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの趣味のハーモニカの演奏を披露されたり、希望のコーヒーを飲んで頂いたり、毎朝味噌汁の中に落とし玉子等食べる楽しみを活かしている。洗濯たたみや入浴の準備等役割を担っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様一人、ひとりの希望に添って自由に外出の支援を行っている。散歩、外泊時の送迎等、御本人、ご家族の希望に添って戸外に出られるように支援している。	日頃は、駐車場の愛犬のいる庭を散歩したり、毎週水曜日はデイサービスで出かけて3B体操をしたりして、地域の方々と交流している。毎年の初詣、近隣の桜の名所である公園に職員と花見や散策に出かけるなど計画的に外出をしている。また、家族の協力をもらいながら、外出や外泊を楽しまれている方もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>9名中2名の利用者様が自己管理をされて希望の玉子、パンなどを買ったり、病院受診時自分で支払う支援を行っている。横で必ずスタッフが見守り領収書は出納帳で管理し必ず再確認を行っている。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>生活の中で、電話は自由にいつでもかけて頂いている。手紙も自由にやり取りができるように要望に応じた支援をしている。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関は家庭的で入りやすく、ホーム内は和風の広々と落ち着いた雰囲気である。不快な音、光はない。フロアの壁には水墨画や油絵等を飾って落ち着いた雰囲気で面会に来られた方も喜ばれている。ソファ、畳（こたつ）リビング、ウッドデッキと居心地の良い空間を整えている。</p>	<p>玄関には、季節の生花が飾られフロアに平行して居室が並んでいる。テーブルや椅子、中央に畳スペースがあり炬燵で過ごせるようにしてある。ソファからは、テラス越しに周囲の木々や景色がパノラマ写真のように一望できる。絵画や外出先での写真が掲示されており、落ち着きのある共有空間である。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>個々又は、利用者様同士で思い思いのんびりした時間が過ごせる空間の中で、新聞を読んだり、ハーモニカを吹いたり、歌を歌って過ごせる居場所の工夫をしている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時等、本人や家族と相談しながら、本人の居心地が良く過ごせるようにに部屋作りを工夫して、その人らしく過ごされている。</p>	<p>本人の趣味のハーモニカやテレビやダンス、家族とのアルバム、位牌など馴染みの物を持ち込み居心地よく過ごしている。本人の生活習慣や希望を反映した畳仕様の部屋が一部屋ある。空気清浄機や換気扇を活用し、過ごしやすい住環境を整備している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の不安や混乱が起これないように、テーブルの座る位置の配慮などを行い、馴染みの関係が築けるようにしている。表示や目印はなじみの物を使い一人、一人のわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立した生活が暮らせるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない